

No.254

この秋、私たちの鹿島硬式野球部が、都市対抗野球で第3位・黄獅子旗を獲得しました。鹿島製鉄所地元のサッカーチーム、鹿島アントラーズはナビスコ杯で優勝しました。どちらのチームも、東日本大震災で被災しましたが、頑張ってきた成果です。

嬉しい知らせがもう一つ届きました。11月20日、住友金属混声合唱団が青森市で開催された全日本合唱コンクールに出場し、連続25回目の金賞とカワイ奨励賞を受賞しました。次回全国大会出場のシード権も獲得し、気持ちはすでに来年に向かっていきます。

これからも、皆さんの温かい応援をよろしくお願いします。

今月は、嬉しい受賞の話題です。

秋の叙勲で私たちの二人の仲間が、黄綬褒章を受賞しました。製鋼所台車工場の植田安男(うえだやすお)さんと、鹿島製鉄所厚板工場の栗林恒一(くりばやしこういち)さんは、長年にわたりより良い製品造りに取り組み業務に励んできました。このご褒美は仲間みんなのものだと喜んでいきます。

二つ目は、鋼管技術部長の目下嘉蔵(くさかよしぞう)さんが、ISO(国際標準化機構)とAPI(米国石油協会)から、油井管の標準や規格の発展に貢献する仕組みの考案などをご評価いただき「感謝状」を受賞した話題です。

どの賞も、一人ひとりの地道な努力や工夫、仲間とのチームワークが良い結果を生み出しました。これからも高い評価を目指して努力を続けます。



●秋の叙勲で二人の仲間が黄綬褒章を受賞しました

今年秋の叙勲で私たちの仲間から二人の方が、黄綬褒章を受賞しました。黄綬褒章は、永年にわたり業務に励み優れた功績をあげた方に贈られます。受賞したのは、製鋼所台車工場の植田安男(うえだやすお)さんと鹿島製鉄所厚板工場の栗林恒一(くりばやしこういち)さんです。二人は、11月11日厚生労働省での伝達式のと、皇居に参内、皇太子殿下に接見を賜りました。

植田さんは、昭和46年に当社に入社して以来、主として鉄道車両用台車(以下、台車)の品質管理・検査業務に従事してきました。

鉄道を支える台車は、人命を乗せる重要な製品です。そのフレームは鋼板を溶接してつくられるので、溶接部の品質管理は重要な課題です。植田さんは、鋼板どうしを溶接するときの間隙(ルートギャップ)が一定の範囲から外れると溶接欠陥が発生することを発見し、管理値を規定するなどルートギャップ管理の厳格化に取り組み、溶接欠陥を減らしました。また溶接材添加量の管理や、熱歪み直し作業の標準化も実施しました。

植田さんは受賞に際して、「現場作業者は一生懸命検査しているので、どうすれば見落としを撲滅することができるか、また、やり甲斐のある職場づくりを進めることが大変でした」とこれまでを振り返り、「自分自身で得た受賞ではなく上司はじめ諸先輩、同僚のおかげ」と感謝の気持ちを語っています。周囲からは、「仕事の厳しさは当たり前ですが、明るく包み込んでくれる性格で何でも相談できて頼れる人柄」という声があがっています。



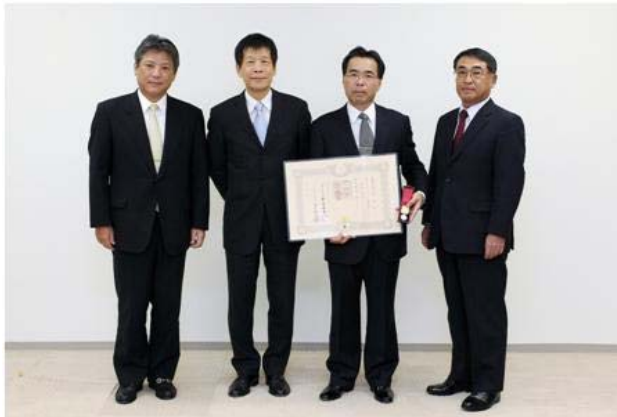
左から 副社長 小塚修一郎、社長 友野 宏、植田安男さん、専務執行役員 堀田義高

栗林さんは、昭和42年の入社以来、和歌山・鹿島製鉄所で厚鋼板の精整ラインの業務に従事してきました。

精整ラインとは、圧延後の厚板の冷却、剪断、検査などの処理をするラインのことです。栗林さんは、精整ラインの厚板を搬送するテーブルの制御ロジックを開発しました。このロジックで、テーブル上を移動する厚板どうしの追突を防ぎながら間隔を縮めることができました。その結果、処理ラインが厚板を待つ時間を短縮し、ライン全体の能率を向上させました。

職場で聞く栗林さんは、「他人が困っていると放っておけない性格で、多くの方から信頼・尊敬される」人柄です。

受賞にあたり、栗林さんは、「個人差の大きな手作業を平準化し能率向上を目指すために精整ラインの自動化に着手、チーム員全員で昼夜を問わず対応したことが一番苦労しました」、「今後は恩返しを込めて若手の育成及び技能伝承、そして工場が抱えている問題等の解決に向けて、微力ではありますが尽力していきたい」と語りました。



左から 副社長 小塚修一郎、社長 友野 宏、栗林恒一さん、専務執行役員 堀田義高

私たちは、お二人の受章をお祝いするとともに、課題に積極的に取り組む姿勢を受け継いで、ものづくりを進めています。

●世界標準をリードします

ISO(国際標準化機構)とAPI(米国石油協会)から感謝状をいただきました。

私たちが強みを持つシームレスパイプ。その最大の用途は石油や天然ガスの開発に使う「油井管」です。

この油井管の規格や標準は、ISO(国際標準化機構)とAPI(米国石油協会)で決められています。世界中の石油・ガスはここで定められた規格や標準にのっとって開発されます。言葉をかえれば、これらの標準と規格が世界のエネルギー産業を支えているのです。

私たちの鋼管技術部長、日下嘉蔵(くさかよしぞう)さんは世界の標準や規格に大きな影響を持つこの二つの組織で、ISOでは油井管規格作成委員会の議長(*)、APIでは規格作成委員を務めています。このポジションは長年にわたって私たち住友金属のシームレスパイプ技術者が務めてきました。私たちの技術は油井管にかかわる世界標準をリードしてきたのです。

このたび、日下さんの、この世界の技術標準への貢献に対して2つの組織から「感謝状」の盾が贈呈されました。ISOやAPIの出す標準は技術の進歩とともに常に進化し、改訂されています。今回の感謝状は、標準や規格の進化発展をよりスムーズにするための日下さん提案の仕組みなどをご評価いただいたものです。この仕組みは油井管以外の分野にも横展開され、鉄を超えた技術標準全体の進化発展に寄与することが期待されています。

日下さんは「安全で効率的なエネルギー開発を可能にする技術が、広く利用されることのお役にたったことが認めてもらえて、うれしいです」と話しています。



API 感謝状



ISO感謝状

* : 例えばISOには、委員会 (subcommittee) が500以上あります。ここで議長ポジションを獲得している日本人は数十人にすぎず、鉄にかかわる分野では二人だけです。日下さんはその一人です。